The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	創刊30号記念号発行に際して
Author(s)	吉本, 周平
Citation	モンゴル研究. 2018, 29-30, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102442
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

創刊30号記念号発行に際して

吉 本 周 平

「モンゴル研究」も30号を数えることになりました。創刊号を世に送り出して43年数ケ月、モンゴル研究会が生れてからほぼ半世紀たちます。大阪外国語大学モンゴル語学科の学生が主体であった研究会も、日々の議論と週例会、夏合宿、フィールドワークという活動形態に、月例会が加わり、卒業生が増え平均年齢が上がるとともに、少なくとも『モンゴル研究』については月例会が主体となっていきます。会員の幅が広がり、年齢や職業も多様、モンゴルからの留学生（本号の編集長はT. エネビシさん）も多く、そもそも大学の枠も、大阪という枠も超えています。「モンゴル研究」の発行も電子出版となりより多くの方々に読んでいただけるようになりました。この間、ソ連が、ベルリンの壁が崩壊し、中国も変化が大きく、モンゴル人民共和国はモンゴル国となりました。次々と新しい科学技術が生まれ、数々の人災・天災も経験しながら、世界は政治的、経済的、社会的に、そして文化的にも大きく変動し、モンゴルおよびモンゴルをめぐる状況も変わり続けています。当然ながら、日本も。

しかし、何が変わり、何が変わらず、私たちはどこに向かおうとしているのでしょうか。ここで「私たち」とは、「あなたたち」や「あの人たち」を排除する狭い「私たち」ではありません。「私たち」とかまえて、敵をつくったり欺いたりして利を得ようとする「私たち」ではありません。「私たち人間」が大前提です。私たちは、学びあい、事実・真実を知るとともに、それを単なる知識や情報や仕事にとどめず、本来の「知」または「智」として生き暮らしていこうとするものです。「論文」の出発点もそこにあります。この姿勢こそ変わらないものだと、モンゴル研究会の「私たち」はそれを誇りに思い、最も広い意味での「私たち」として生きていくためのモンゴル研究だと考えています。

さて、この号では通常の論文や研究ノートだけではなく、記念号として特集を組みました。まずは、「明日に向かって」です。原稿を募集する際に会員に送付したメールを該当ページに掲載しておきますので、その内容から趣旨をご理解いただきたいと思います。次に、エネビシさんの小貫雅男氏に対するインタビューです。もともと特集として意図したものではなく、テープを起こしたものを読ませていただいたところ、記念号にふさわしい内容でしたので、エネビシさんと小貫雅男氏に無理を通していただき特集としたものです。これについても、小貫氏に許可をいただくために送らせていただいた手紙を転載して経緯および趣旨の紹介とさせていただきたいと思います。そして創刊号から前号までの「モンゴル研究」の目次一覧です。一度目を通してみてください。これまでの歩みがよくわかります。

なんと30号です。司馬遼太郎氏の危惧された３年、３号をはるかに超えて継続することができました。継続は力なりと申します。基本姿勢を継続し、モンゴル研究会と「モンゴル研究」を、より幅広くより質高いものとすることへのご参加とご支援をお願いいたします。次号も楽しみにしてください。そして、ともに次の記念号（50号？）を生み出しませんか。